

8 年生が 5 月 30 日に職場体験学習を行いました。町内 8 か所の体験先で、仕事の説明を聞いたり、実際に体験させてもらったりしました。職場体験は、生徒が直接働く人と接することにより、実地的な知識や技術・技能に触れることを通して、学ぶことの意義や働くことの意義を理解することや、生徒が主体的に進路を選択決定する態度や意志、意欲など培うことができる教育活動として位置付けられており、生徒にとって貴重な体験の場になっています。

竹田 穂乃香さんの感想

水辺の郷「おおやま」の方は、私たちにやさしく仕事のことを教えてくれました。一番心に残っているのは、「商品にはそれぞれのドラマがある」という言葉です。これから将来を決めていく中で、今回の体験が大切になると思うので、とても良かったです。

他の画像は学校 HP でご覧になれます

渡辺 百華さんの感想

私は元々、介護系や看護系の仕事に興味があったので、今回の職場体験でいっそう興味が湧きました。楽しいだけじゃないだろうし、大変な時もあるだろうけど人の笑顔を見るために、これからの学校生活を大切にしていきたいと思います。



令和 7 年度 第 1 回コミュニティー・スクール（CS）委員会＝学校運営協議会を行いました。本校における CS 委員会は、平成 28 年・29 年に準備段階としての推進委員会を経て、正式な設置から 8 年目を迎えます。この「CS 委員会」は、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。会には 3 つのプロジェクトチームがあり、それぞれのチームで活動予定や取り組みについて話し合いました。

6 月 4 日（水）職員を対象とした救急救命講習を実施しました。講師は同じ校舎内にある「南地区学校支援センター」の佐藤寿紀さんをお願いしました。佐藤さんは、昨年まで 7 年間、豊後大野市消防本部に勤務し、救急や消防の最前線で働いていた方です。

- ①傷病者の発見 ②意識の確認 ③呼吸・心拍の確認 ④協力者の要請
⑤AED・救急車の手配要請 ⑥心臓マッサージ ⑦AED 使用
の順で 3 グループに分かれて、実習を行いました。

胸骨圧迫（心臓マッサージ）の講習を受けました。声掛けの大切さ、胸骨圧迫を続けること（続けることで 60% 助かる可能性がある）、たくさん人がいると良いということなど改めて確認できました。いつ、どこで、なにが起こるか分からないので、いざというときに慌てないように講習会にはたくさん参加したいです。伊藤由菜

これまでも救命講習は何度か受けてきましたが、時間が経つと忘れてしまっていることもあるため、改めて定期的に学ぶことの大切さを実感しました。特に大山小中学校は、救急車の到着までに時間がかかることが想定されるため、一次救命処置が生存率を高める上での重要な要素となり、職員全員が協力して取り組むことが大切だと感じました。今回のように練習したり、常に手順や必要なことを考えたりすることによって有事の際に落ち着いて行動したいと思います。堤 美帆

